太田市立城東中学校の研修　～ 校内研修の充実 ～

1　問題

1.1　目的

本稿は、本年度の本校（太田市立城東中学校）約半年間の校内研修の取り組みを示し、中学校現場の現実的な校内研修の在り方を探ることを目的とする。

中学校の校内研修は、実際のところ現場の教師にどのように意識されているのだろうか。研修の必要性は認めつつも、しかし研修の会議となるとついつい敬遠しがちというのが偽らざる実態ではないだろうか。われわれはその理由として次の２つを考えている。

まず第一に挙げられる理由は、中学校現場の忙しさであろう。連日生じる大小さまざまの生徒指導上の問題、加えて毎日のそして休日の部活動指導、これらは本校に限らず中学校現場に共通する問題で、中学校現場を心理的、物理的に多忙化させる原因となっている。その上、平成 15 年度の学習指導要領の一部改正を機に、われわれの授業時数は確実に多くなった。少人数指導、選択教科の授業、総合的な学習の時間にこれまで以上の複数教員が関わるからである。今日の中学校教師は慢性的な疲労感に満ちているといってもよい。実感としてそう感じている。こうした超多忙ゆえに校内研修を敬遠してしまうのである。

そしてもう一つの理由は、研修に直接的な達成感や満足感が得られていないからだと考える。一言で言えば面白くないのである。研修内容が抽象的で何をしていいのかよく分からない。あれもこれもと盛りだくさんでやっていることがよく分からない。指導案や紀要のまとめを書くことに全精力を傾けるだけで役に立たない。子どもの変容が実感としてつかめない等々、総じて自分自身のためになったという実感に乏しく、研修から何を学んだのかよく分からないという現実があったからであろう。

こうした現状を踏まえて、中学校の校内研修はどのように進めたらよいのだろうか。中学校の現場の実情に合った、教師自らの指導力に資する研修の在り方とは、どのようなものか。われわれは、建前論ではなく現実的な議論をしなければならないと考えている。

以下、本校 11 月現在までの研修の取り組みを具体的に示し、中学校現場の現実的な校内研修の在り方を探っていくことにする。

1.2　方針及び研修内容

1.2.1　４方針～４つのキーワード

校内研修を敬遠する気持ちも事実としてある一方で、他方、われわれが今よりももっとよい授業をしたいと願っていることも偽りのない事実である。本校の教師全員が例外なく、よい授業をしたい、同僚と学び合いたいと考えている。「一人一授業公開をしていきましょう」と呼びかければ、一人の反対もなく全員の賛同を得られるのである。子どもに力が付く授業を実践したい、そういう授業技術を学びたいと考えているのである。

われわれは、校内研修を教師自身のためになって、意欲的に取り組めるものにしなければならないと考えた。そこで、先述した現状を踏まえて以下の４方針（４つのキーワード）を立て、この方針に沿って研修内容を構想していくことにした。４方針とは即ち、①「手軽さ」②「明確さ」③「データ」④「修正」である。

まず、この４方針について述べよう。

超が付くほど忙しい現場ではまず、①面倒でなく手軽にできるものでなければならない。あまりに大仰なものは中学校現場に相応しくない。また、「一人の百歩より、百人の一歩」と言われる。「みんなでできる、みんなができる」ことが大事で、「手軽さ」はその意味でも研修を成功させる重要な要件である。また、②研修内容は「明確」でなければならない。研修内容が具体的であること。これも研修を成功させる要件であると考える。③研修で実践したことは、実際に効果や成果がなければならない。それを「データ」で示さなけ

ればならない。研修の結果を印象批評で終わらせてはいけない。「データ」に基づいた検証を行う必要があると考える。そして、④研修は、一定の間隔をおいて「修正」を加えなければならない。実態の変化に即して修正や微調整を加える。これは、マンネリ化を防ぎ研修を息の長いものにするためにも大事なことであると考えている。

1.2.2 本校の研修テーマ

ここで、本校の研修テーマについて簡単に述べておきたい。

本校の今年度のテーマは「生徒の意欲を引き出す授業改善」である。過去２年間は生徒指導をテーマにした研修内容であった。この研修成果を生かしながら、今年度は授業改善を前面に出して研修を行うことになった。目指すは、学力の向上である。

われわれは、まず、生徒の意欲を向上させたいと考えている。とりわけ授業での意欲を高めたい。授業での意欲を高めることが、生徒自身の学習への取り組みを積極的にし、学力の向上も図られていくだろうという方向性を考えたのである。

1.2.3 研修内容

このテーマに対して、先の４方針に沿って様々な研修内容を企画した。一人一授業公開、授業検討会、プチ面談、模擬授業、講師招聘研修（生徒指導事例研究、授業リフレクション）、学年部会研修等々であるが、以下に本年度の目玉とも言うべき６点を示す。

①一人一授業公開　～「見せ場を絞って公開」～

今までの授業公開は、授業の一時間すべてを公開してきた。しかし、これは授業を実施する方も、参観する方もその時間を生み出すのが大変である。面倒である。そこで、もっと手軽にできるようにという発想で、授業者が「授業のここを見てください」と見せ場を絞って公開することを企画した。

②授業検討会 ～「参加者数人でも実施」～

公開したその日の放課後、30 分程度、参観者数人で気楽に授業について話し合える場を作ることを企画した。授業検討会を「私の授業、どうだい？」という意味で「じゅぎょうどうだい（授業問題と書く）」と命名した。時にはあそびごころも大切だと考えている。

③班別研修の単位は学年

班別研修を考えたとき、教科部会よりも学年部会の方が開きやすい。というよりもむしろ、学年部会の中に研修の時間を設定してもらうことが最も現実的で手軽である。時間と手間を省くことを考え、班別研修は、学年部会をそのまま研修班とすることにした。

④指導案の形式を自由に

とかく校内研修というと、「一教師の指導案でなく学校全体の指導案を」という形式を要求しがちになる。内容的必然性よりも形式が優先されることになる。われわれは、形式よりも実質あるいはやり易さを尊重する。教師各人の自発に任せた方がきっと手軽で、面白いものが出てくると考えた。

⑤「校内研修だより」の発行

やるべきことを明確に示していく。また、一人一授業公開の案内や結果の報告、他校の研修視察の案内など情報の提供を兼ねて回数を多く発行していくことにした。

⑥アンケート調査

生徒向けに「生活全般に対する意欲アンケート調査」を、教師向けに「中間・最終評価アンケート調査」を実施する。生徒の実態を把握したり、研修内容を検証したり、また、得られたデータに基づいて研修を修正したりするためである。

1.3 仮説

４方針に基づいた上記の研修内容について７つの仮説を示す。

仮説①　一人一授業公開は、研修テーマ「生徒の意欲を引き出す授業改善」という面で効果があるだろう。

仮説②　一人一授業公開は、教師の授業技術の向上に役立つであろう。
仮説③　一人一授業公開は、教師の意欲を高めるであろう。
仮説④　授業公開後の検討会「授業問題」の設定は効果があるだろう。
仮説⑤　活動の単位が学年の方が、教師の意欲が出るであろう。
仮説⑥　指導案の書き方をフリーにした方が教師の意欲を高めるであろう。
仮説⑦　研修だよりは、教師のやる気を高めるかもしれないし、まったく読まれないかもしれない。その場合紙のムダと思われる可能性もある。そこで、この段階では仮説を設けず、探索的に検討することにする。

2　研修内容

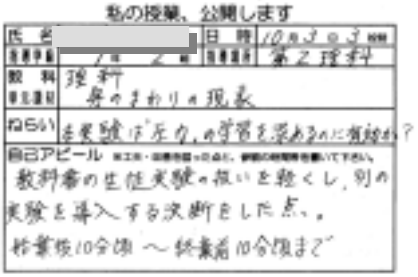
本年度の研修内容の中で、「手軽さ」の例として「一人一授業公開」「授業検討会」「学年別研修」、「データ」及び「修正」の例として「教師・生徒アンケート」、「明確さ」の例として「研修だより」に関する取り組みを以下に述べる。

2.1　一人一授業公開　～指導案なし、ポイントを絞って公開～

一人一回、授業を公開することにした。手軽にできるよう、「指導案はなし」とした。

☆授業公開メモ

（例）１年理科「身のまわりの現象」

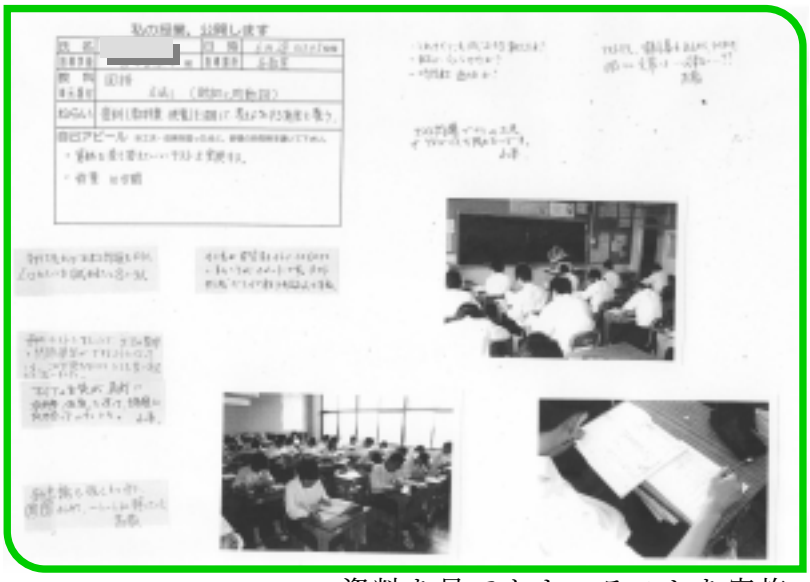


＜図１＞　授業公開メモの形式及び具体例

＜表１＞　授業公開一覧表　　塗りつぶしは実施済（１１月中旬まで）

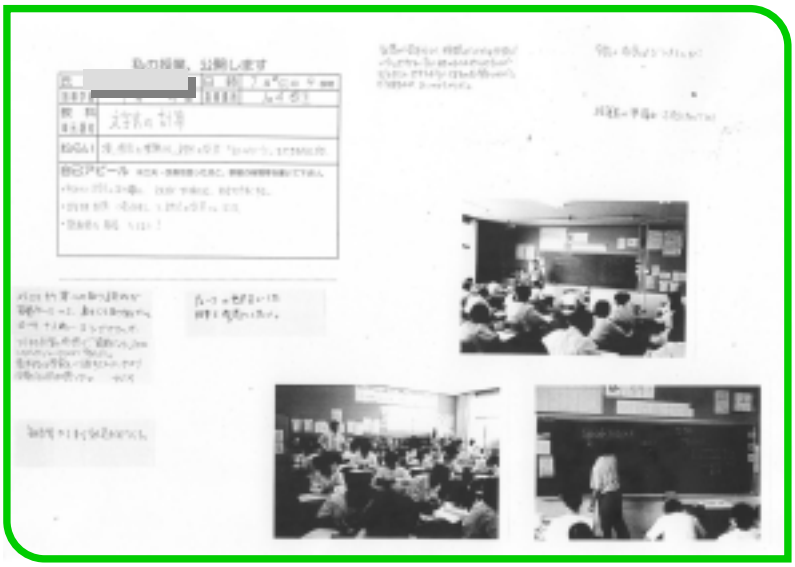
	氏　名	実施予定時期	教科等	内　容
1	A	10月下旬～11月上旬	社 会	中世の日本
2	B	10月～11月	理 科	身のまわりの現象
3	C	６月	作 業	自分の好きな小物を作ろう
4	D	７月	数 学	「文字と式」基礎学力の定着を目指して
5	E	８月	英 語	私の夏休み
6	F	夏休み	道 徳	道徳模擬授業
7	G	６月中	国 語	資料集を見ていいテストをします
8	H	12月	体 育	
9	I	９月	選 社	こんにゃく作り
10	J	７月	英 語	自己紹介ポスター作り・スピーチ
11	K	11月～12月	音 楽	
12	L	12月	数 学	相似な図形
13	M	11月～12月	理 科	化学変化と原子・分子
14	N	12月	技 術	
15	O	11月９日	美 術	日本美術を楽しもう
16	P	６月	英 語	ジャパンクイズを作ろう
17	Q	７月	数 学	１次式の計算　項と係数
18	R	いつでも	数 学	
19	S	11月14日	家 庭	わたしたちの消費生活と環境
20	T	10月終～11月始	体 育	ダンス
21	U	11月～12月	体 育	
22	V	11月～12月	理 科	電流・オームの法則

＜授業公開の様子①＞　３年国語「文法１　助詞と助動詞」



資料を見てもよいテストを実施

＜授業公開の様子②＞　１年数学「文字式の計算」



とにかく丁寧で分かりやすい計画的な板書

代わりに授業公開メモ（図１）を事前に出し、見所や参観時間帯を示すことにした。参観の時間は５～ 15 分程度、導入部分でも展開部分でもよい。参観者も全員でなくてよい。これで授業者の心理的、時間的な負担はずいぶん軽くなると考えた。また、10 分程度であれば、参観者も何とか時間を作れると考えたのである。表１が、授業公開の一覧表である。授業公開の実際の様子（授業公開の様子①②）も掲げておく。

2.2　授業検討会　～参加者数人でも実施～

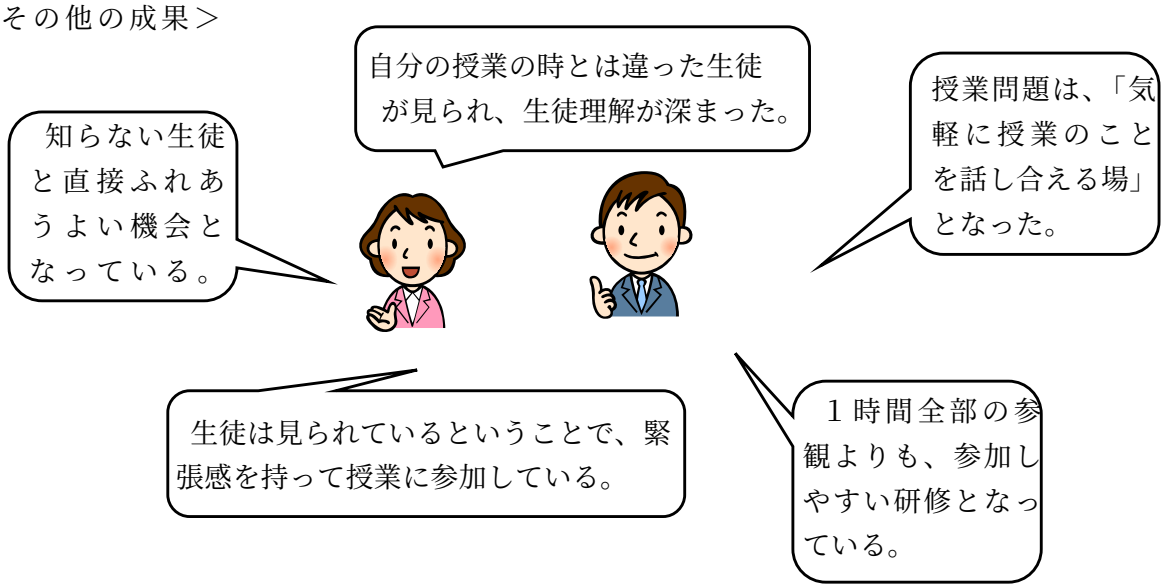
授業問題（じゅぎょうどうだい）として、授業公開の当日放課後に実施している。参加者平均５人～８人で、30 分程度で行う。参加できない教師には付箋に書いたメモをもらうことにしている。ここでは、生徒の意欲を引き出すような授業技術が話題として出される。今までに抽出された授業技術を表２のようにまとめた。

研修は、教師の指導力に資するものでなければ意味がない。生徒の意欲を引き出す技術にはどのようなものがあるのか、集中させる技術にはどのようなものがあるか等々、様々な技術を知識として習得できれば一生使える授業技術を身につけることになる。授業技術

＜表２＞　抽出された授業技術など（生徒の意欲を引き出す上で有効だった手段）

・資料集をみて問題を解決するのに、**「テスト形式」**で行うとよい。	・英語の学習をしてしまうような**「タスク活動」**を取り入れる。	**・「大事な事は２度言う。ゆっくり言う。」**
・初めての文字式。とにかく分かりやすく授業する。**「大きな文字で、色は使うけど使いすぎず、計画的な板書」**をする。	・数学のフラッシュカードで項を動かす。フラッシュカードは、**「見せるだけでなく動かして使う」**こともできる。	・ワークシートに**「問題は書かない」**ほうが、授業に集中する。
・「夏」で思い出す単語をたくさん挙げさせる。夏休みの体験を日記風に書く過去形の授業。**「準備を十分させてから課題に入る」**とよい。		**・「これは先生にうまく引っかけられた」**と思わせるような展開の工夫をする。
・教科書の実験の扱いを軽くし、**「生徒の実態にあった実験を導入する」**ことで、意欲的に取り組む。	・発表のさせ方の一つとして、**「書いたことを読ませる」**。書く時間をとることで考える時間を保障。発表が長くならないし、他人に左右されない。	・全員参加のさせ方として、意見を持たせてから、**「人数を数え」て全員を確認する。同じ意見の人を同時に「起立させる」。**
・「生徒に板書させる時は、縦書きにさせる」と、一度に沢山の生徒が板書できる。	・言葉を覚えて勉強した気にさせない。**「汗をかかせよう。体験させよう。」**	・まず、実物を用意しよう。実物の中にも良し悪しがある。**「質の高い実物を用意しよう。」**

＜その他の成果＞



を抽出して記録しておくことは、今後若返ることが予想される職員集団へ贈る財産になると考えている。

2.3　アンケート調査

2.3.1　質問紙（全 **36** 項目）の作成及び実施

研修テーマを「生徒の意欲を引き出す授業改善」としたが、生徒の意欲についてはどのように測定するのか。意欲という目に見えないものを、目に見える形にしておくことが必

＜表３＞ 生徒アンケート：学校生活全般に対する意欲　※数字は５段階評定の平均値

項　　目 ①～⑩は学年別上位 10 項目	得点の平均値 １年	２年	３年	全学年
1　８：２５には登校しようとしている	② 4.66	③ 4.37	⑦ 4.07	④ 4.37
2　朝読書に真剣に取り組もうとしている	3.97	3.70	⑧ 4.02	3.90
3　朝の会に真剣に取り組もうとしている	3.41	3.02	3.23	3.22
4　国語の授業に真剣に取り組もうとしている	4.21	3.79	3.75	3.92
5　社会の授業に真剣に取り組もうとしている	3.64	3.73	⑨ 4.01	3.79
6　数学の授業に真剣に取り組もうとしている	4.17	⑨ 3.88	⑩ 3.99	⑩ 4.01
7　理科の授業に真剣に取り組もうとしている	3.73	3.84	3.71	3.76
8　英語の授業に真剣に取り組もうとしている	3.83	3.78	3.56	3.72
9　音楽の授業に真剣に取り組もうとしている	⑨ 4.25	⑩ 3.86	3.97	⑧ 4.03
10　美術の授業に真剣に取り組もうとしている	3.78	3.74	3.65	3.72
11　保健の授業に真剣に取り組もうとしている	3.25	3.35	3.61	3.40
12　体育の授業に真剣に取り組もうとしている	⑤ 4.30	④ 4.29	⑥ 4.11	⑤ 4.23
13　技術の授業に真剣に取り組もうとしている	3.70	3.73	3.77	3.73
14　家庭の授業に真剣に取り組もうとしている	4.03	⑧ 3.95	3.72	3.90
15　学活の授業に真剣に取り組もうとしている	3.83	3.53	3.54	3.63
16　総合的な学習の授業に真剣に取り組もうとしている	3.76	3.59	3.68	3.68
17　選択の授業に真剣に取り組もうとしている		① 4.59	② 4.51	② 4.55
18　道徳の授業に真剣に取り組もうとしている	3.72	3.40	3.18	3.43
19　チャイム着席をしようとしている	⑤ 4.30	⑩ 3.86	3.56	3.91
20　授業時のあいさつをしっかりしようとしている	3.60	2.86	3.19	3.22
21　授業で分からないことは、解決しようとしている	3.72	3.14	3.44	3.43
22　学習用具を忘れないようにしている	4.16	3.75	3.97	3.96
23　宿題を忘れないようにしている	3.74	3.30	3.36	3.47
24　委員会や係の仕事をやり遂げようとしている	⑦ 4.28	⑦ 3.99	3.97	⑦ 4.08
25　日直の仕事をやり遂げようとしている	⑨ 4.25	⑥ 4.07	3.97	⑥ 4.10
26　好き嫌いをせずに給食を食べようとしている	3.70	3.69	3.62	3.67
27　休み時間を積極的に楽しもうとしている	② 4.66	② 4.49	① 4.62	① 4.60
28　ＩＳＯの活動に積極的に取り組もうとしている	3.34	3.01	3.17	3.17
29　自問清掃に真剣に取り組もうとしている	3.06	2.98	3.04	3.03
30　帰りの会に真剣に取り組もうとしている	3.49	3.00	3.14	3.21
31　部活動に真剣に取り組もうとしている	① 4.71	⑤ 4.28	④ 4.14	③ 4.38
32　下校時刻を守って帰ろうとしている	4.16	3.66	⑤ 4.13	3.98
33　服装をきちんとしようとしている	⑦ 4.28	3.51	3.61	3.80
34　自分の進路について真剣に考えようとしている	3.39	3.60	③ 4.16	3.72
35　先生に頼まれたことは、進んでやろうとしている	3.81	3.48	3.59	3.63
36　登下校時にヘルメットを着用しようとしている	④ 4.57	3.81	3.68	⑨ 4.02
全項目の平均	3.93	3.68	3.63	3.78

要である。そこで、数値化（データ化）を試みる。ここで得られたデータは、いずれ検証する際に、また、研修内容を修正する際に使用することになる。

現時点での本人の意欲の程度や傾向を確認する目的で、「学校生活全般に対する意欲尺度」36 項目を作成した。学習意欲に限定せず生活意欲も含めて、登校してから下校するまでの学校生活すべての場面についてたずねることにした。また、意欲をたずねる質問であることをはっきり打ち出すために、質問項目は「○○しようとしている」という表現に統一した。評定段階については、５段階（５=とてもよくあてはまる～３=少しあてはまる～１=ぜんぜんあてはまらない）とした。調査対象は全校生徒 349 人で本校生徒全員の悉皆調査となる。アンケートの説明等、調査条件を極力揃えるために、調査は研修主任（中里）・副主任（神部）が担当した。調査時期は、2006 年 10 月 11 日～ 16 日である。

2.3.2　結果

表３が調査の結果である。この結果から５点述べる。

①表３が基礎データとなる。これが現時点での生徒の意欲の実態と捉え、今後われわれ

の実践はこの数値を高めるべく努力することになる。

②「27)休み時間（4.60）」「17)選択授業（4.55）」「31)部活動（4.38）」の意欲が高いことが分かった。「選択授業」「部活動」は自分で選んだものである。やはり与えられたものより、自分で選択したものの方が意欲は高いということだろう。意欲を高めるには「生徒に選ばせる」ということが確認できたように思われる。

③意欲の低かった項目は「29)自問清掃（3.03）」「28)ISO活動（3.17）」「30)帰りの会（3.21）」「3)朝の会（3.22）」「20)授業時のあいさつ（3.22）」であった。これらの項目は、アンケートの全 36 項目を因子分析したとき、第三因子として抽出された項目でもある。われわれは、この第三因子を「学校生活因子」と名づけた。本校の生徒は普段の学校生活に対する意欲が低いことが指摘されたと言うことができよう。

④１年、２年、３年と学年が進むに連れて、全般的に意欲は下降傾向（3.93 － 3.68 － 3.63）にある。これは、思春期という生徒の発達の状況を考えると当然の結果かもしれない。しかし、「34)進路」についてはこの傾向と逆（3.39 － 3.60 － 4.16）で、学年が進むに連れて意欲が高まっている。１年生の進路に対する意識・意欲が低いということが分かった。

⑤この結果を踏まえて、各学年は研修内容を修正することにした。学年部会研修では各学年の実態に合わせて「学習の基盤づくり」に取り組んできたが、後期の実践を表４のように修正することになった。

＜表４＞ 学年部会研修の修正

	学年部会研修「学習の基盤づくり」の修正
1学年部会	○「自分の進路について真剣に考えようとしている。」 3.39（５段階評定の平均値） ※（他学年に比べて低い得点） ↓ 自分の進路目標のある生徒の方が学習に対する取り組みがよいので ○進路学習を計画に組み、意欲づけをしていく。 ○４月より続けている視写に聴写を加えてマンネリ化を防ぐ。 （聞く態度・学習の雰囲気を作るため）
2学年部会	○「朝読書に真剣に取り組もうとしている。」 3.70（５段階評定の平均値） ↓ 学校生活を落ち着いた気持ちでスタート ○読書（読破）記録を掲示し、達成感を高める。 （他の生徒の読後感やおすすめの本などの情報を交換しあえる掲示物の工夫） 学活などでもあえて「読書タイム」をとり、長時間集中力が続くようにする。
3学年部会	○「授業で分からないことは、解決しようとしている。」3.44（５段階評定の平均値） ↓ 学校行事も終え、進路に真剣に向き合う時期でもあるので ○週に２回（火・木曜）、昼休みに質問教室を実施する。 ※あわせて、部活もない３年生には昼休みの体育館を開放し、心と身体のリフレッシュが図れるようにする。担任・担任外全員が当番として関わる。

2.4 研修だより「城東研修」の発行

研修だよりで、研修内容を明確に示した。11 月下旬までに 30 号を発行した。研修の方針、研修推進委員会の報告をはじめとして、授業公開の案内や結果の報告、他校の研修視察の案内、研究授業者へのメッセージなどの情報を小まめに提供してきた。なお、「研究授業者へのメッセージ」は、指導主事訪問日に研究授業を行った教師に他の教師が一言メッセージを書いて、それをまとめたものである。

3　まとめ

3.1 職員「研修中間評価」の結果

仮説の検証及び研修の修正の資料を得ることを目的として、全職員に「研修中間評価アンケート」を実施した。本校は２学期制なので前期の終了にあわせて **10** 月２日に実施した。評定は、５段階（５=とてもよくあてはまる，４=よくあてはまる，３=少しあてはまる，２=あまりあてはまらない，１=ぜんぜんあてはまらない）とした。表５がその結果である。評定３が「少しあてはまる」と設定したため、評定平均が **3.00** 以上あればとりあえずは成果があったと考えられる。しかし、職員同士で評定１や２は付けにくいという面もあるし、全体的に評価が甘くなるのも事実である。表５の人数内訳では、評定の平均値が **4.00** 未満の項目から評定３にマークした人数も相対的に多くなる。そこで考察に当たっては、評定４以上であれば成果があったと判断することにしたい。また、表６は本年度の研修に対する職員の意見である。自由記述してもらったものを全員分載せておく。

3.2 仮説の検討

ここで、表５及び表６に基づいて仮説の検討を行う。

① 仮説①については、「**12**)公開授業は、生徒の意欲の向上という面で、効果的である」

＜表５＞ 職員アンケート：研修中間評価の結果　　※数字は５段階の人数内訳と平均値

	質　問　項　目	5	4	3	2	1	平均値
1	一人一授業公開は、効果的である。	10	12	2	0	0	4.33
2	授業公開は、授業技術の向上に役立っている。	9	14	1	0	0	4.33
3	授業検討における付箋紙の使い方は効果的である。	9	14	2	0	0	4.28
4	指導案検討の模擬授業はやった方がよい。	11	8	4	1	0	4.21
5	授業公開という取り組みは教師全体の意欲を高めている。	8	13	3	0	0	4.21
6	研修だよりをよく読んでいる。	7	13	4	1	0	4.04
7	活動の単位を学年としたことは研修を進める上で効果的である。	4	18	3	0	0	4.04
8	授業公開後の検討会（授業問題）の設定は効果的である。	5	14	4	0	0	4.04
9	研修だよりは教師のやる気を高めている。	5	15	5	0	0	4.00
10	指導案の書き方をフリーにしたことはよい。	5	10	8	0	0	3.87
11	ここまでの研修は、意欲の向上という研修テーマに向かって機能している。	2	16	7	0	0	3.80
12	公開授業は、生徒の意欲の向上という面で、効果的である。	3	12	8	0	0	3.78
13	活動の単位が学年の方が意欲が出る。	3	13	9	0	0	3.76

＜表６＞　研修に対する感想・意見（自由記述）

○研修に対して真剣に取り組んだ１年になりそうな感じがしています。○気楽に研修できるようになっているのではないかと感じています。○わかりやすい研修となっているので、今後も継続お願いします。○研修だよりがあるのとないのでは大きな違いがあると思います。○まず何より教師の意欲がないことには、子どもの意欲は引き出せないと思うので､教師の意欲を向上させるという意味でも授業公開・検討会は効果的だと思う。○忙しいﾍﾟｰｽでなくﾏｲﾍﾟｰｽながら、互いに授業について話せる機会を与えていただけてありがたく思います。○忙しい中だと、せっかくの授業も「あ～」と思ってしまうので、余裕がある計画が大切だと思います。○一人一授業はとても参考になると思いますが、なかなか時間が合わず、見に行けないのが現状です。数多くの公開授業をやっていただくとありがたいです。○一人一授業公開は、大変なことだとは思いますが、研修の活性化という意味で大きな効果があると思います。○よくがんばっていろいろな工夫をしていると思います。○今年の工夫が効果的に機能していると思います。○各クラスの生徒の様子や意欲傾向を知る上でも一人一授業はよい面があると思います。○個人ではやらなくてはと思ってもなかなか難しいので研修として取り上げることは大切だと思います。○先生方の授業を公開することは、とてもよいと思います。○付箋・模擬授業はとても効果的だと思います。○現状として授業を見に行けないので、一人一人が５～１０分でも見に行ける努力をしていかなければと思います。授業問題も、もう少し活気が出ると思います。○模擬授業などはやらないよりやった方が絶対自分のためになるのですが､他の仕事とのかね合いが重要だと思います｡○指導案の書き方が自由ということは、よいことであるが、大変な面もあると個人的には感じる部分である。○生徒の意欲の向上をどう計るのかがとても難しい。○研修の中間評価をして、微修正しながらすすめていくという発想は素晴らしいと思います。

の結果 3.78 点により、数字としては一応は支持されたと言ってよいだろう。しかし、先に述べたように、評定４を基準と考えた場合は不満の残る得点である。他の項目の得点と比べても相対的に低く、授業公開がすぐに生徒の意欲の向上とはならないということを示しているようだ。確かに授業公開での生徒達は生き生きとしていた。その授業に関しては意欲的に取り組んでいたと言える。「選択社会」でコンニャクを一生懸命摺り下ろしている生徒の姿があった。「国語」でテスト形式の学習に集中している生徒の姿があった。「体育」では、参観者までが思わず生徒と一緒にストレッチをしてしまうという場面もあった。「理科」では紙コップを並べた上に画板を置き、その上に立って興じている生徒の姿があった。また、「動かすワークシート」、「大きく見やすい板書」、「絵巻物の授業」「黒板に一杯の生徒の画用紙」等々、生徒の意欲を引き出す工夫のある授業場面が数々見られた。しかし、これらは公開授業に限ったことであった。普段の生徒を見て、われわれ職員はまだまだ生徒の意欲が向上したと実感できていないのである。したがって、ここではわれわれの基準値４に達していなかったという理由で、仮説①は支持されなかったと言える。

②「1)一人一授業公開は、効果的である」と「2)授業公開は、授業技術の向上に役立っている」は、評定平均 4.33 点で、高い評価を得ている。「5)授業公開という取り組みは教師全体の意欲を高めている（4.21）」も高い。一人一授業公開は、教師の研修意欲を高めていると言ってよいと考える。また、「8)授業公開後の検討会（授業問題）の設定は効果的である(4.04)」も評定４を超えた。したがって、仮説②・③・④は支持された。

③「7)活動の単位を学年としたことは研修を進める上で効果的である(4.04)」については評定４をクリアしているが、「13)活動の単位が学年の方が意欲が出る(3.76)」は、評定４に達しなかった。評価が分かれたと言ってよい。これはどういうことであろうか。考えられる理由に次のようなことがある。３学年の取り組みの一つに「視写」がある。この視写に関しては、担任教師は関わるが担任外の教師は関わらない。研修の取り組みに関わらなければ評価のしようがない。評定４・５や１・２は付けられないので、３を付けることになる。こうして評定平均が下がってしまうのではないだろうか。「一人一授業公開」のように全員が関われる内容でないと今後もこのような結果となる可能性のあることが分かったと言えるだろう。仮説⑤については、学年別研修は研修を進める上での「手軽さ」は支持されたものの、全員が関われる研修内容となっていない部分があるために支持されるまでには至っていないらしいことが明らかになった。

④「10)指導案の書き方をフリーにしたことはよい(3.87)」は、評定４に達しなかった。これは、予想に反した結果となった。われわれは教師各人の自発に任せた方がよいだろうと考えたが、この結果を見ると、ある程度指導案の基本形を示した方がよいのかもしれないという印象を持った。仮説⑥は、支持されなかったと言える。

⑤「9)研修だよりは教師のやる気を高めている」については 4.00 点で、われわれの基準である評定４をクリアした。研修だよりについては仮説を立てずに調査結果を待つことにしたが、自由記述には「研修だよりがあるのとないのでは大きな違いがあると思います」という意見もあり、研修だよりが好意的に受け止められていることが確認できた。なお、評定２をマークした教師も１人いた。否定的評価があることを忘れず、今後も読んでもらえる研修だよりを作る努力が必要だということも確認した。

以上、全体的には本年度の研修は今のところ順調に進んでいるといってよいだろう。表６「研修に対する感想・意見」の「気楽に研修できる」「わかりやすい研修」という言葉に代表されるように、「手軽さ」「明確さ」が実感として職員に受け入れられている結果であろうと考えている。

3.3 研修の微修正

さて、表６の自由記述に次のような意見があった。

・「一人一授業はとても参考になると思いますが、なかなか時間が合わず、見に行けないのが現状です」
・「より効果的にするために、たくさんの人の参加が大切だと思う」
・「先生方の授業を公開することは、とてもよいと思います。現状として授業を見に行けないので、一人一人が５～１０分でも見に行ける努力をしていかなければならないと思います」

授業公開に対する評価は高いのだが､時間が合わずに参観できないという実態があった。そこで、11 月以降は、「授業公開を１クラスではなく、できれば同じ授業内容を複数のクラスで公開する」という微修正を加えることにし、職員の了解を得た。

3.4 明らかになったこと

以上より明らかになったことを６点指摘しておきたい。

①「生徒自身に選ばせる」ことは、生徒の意欲を高める一つの手段となる。（生徒アンケートより）

②本年度の研修の中では「一人一授業公開」が最も好評であり、「授業公開」は教師の「指導技術の向上」や研修に対する「意欲の向上」に実際に効果がある。（教師アンケートより）

③研修だよりは、研修内容を明確にし、教師のやる気を高めている。（教師アンケートより）

④全員が関われる研修内容でないと、評価結果が低くなる可能性がある。（教師アンケートより）

⑤本校の研修が順調に進んでいるのは、「気楽に研修できる」「わかりやすい研修」になっているためであり、結局は「手軽さ」「明確さ」が功を奏している。

⑥アンケート調査結果（「データ」）は、職員や生徒の声を反映させることができ、研修の「修正」や「微修正」を実際に可能にしている。

3.5 まとめ　～２つのエピソードから～

最後に、２つのエピソードを紹介して本稿を終わりにする。

10 月 18 日に、研修主任の中里（第一筆者）が新任研修主任研修講座（講座コード 210）に参加した。講座に参加の教師がそれぞれの学校の研修について報告をした。ポスターセッション方式で行い、よかったと思う報告を選んで投票する。その投票で、中里による本校の研修報告が圧倒的一位を得た。ここで中里の発表したことは、本稿で述べてきた「手軽さ」「明確さ」等の４方針に基づく研修内容であった。したがって、他校の教師の目を惹いたものは本校の研修の「手軽さ」「分かりやすさ」だったと言える。われわれは、「中学校の研修は、手軽にできるものでなければならない」ということを再確認した。担当の指導主事からは「城東中の研修内容はユニークである。単独では他の学校でもやっていることだろうが関連のさせ方がうまい。何が必要なのか生徒や先生達に聞いて方向性を決めている地についた研修である」という評を頂戴した。この言葉からも本校の研修の４方針が認められているという印象を持った。

２つ目は本校の出来事である。どちらも 11 月に入ってからの話である。教師同士の普段の会話の中で研修に関する次のような言葉があった。

・「授業公開は、掛け声だけでなく、実際に続いているところがすごい」
・「授業問題（じゅぎょうどうだい）でもらったアイディアを指導主事訪問日の一般授業に生かせたよ」

研修の話題が日常の職員室の会話の中に出てくることを期待していたわれわれにとって、これらの言葉は、ありがたい一言であり価値ある一言であった。これもまた本年度の研修の成果と言えるだろう。

畢竟するに、中学校の校内研修を成功させる第一の要件は「手軽にできること」、これに尽きるのではなかろうか。そして、「明確さ、データ、修正」がこれに続いて、取り組みやすくまた長く続けられる研修を保障するのではなかろうか。本年度現在までの研修を振り返って、われわれはそう実感している。　（中里真一・神部秀一）